

信を通 わす

10

著作権の関係上、表示できません。

「ギバー」でいつづける



株式会社イー・ウーマン  
代表取締役社長

佐々木かをり氏  
(ささき・かをり)

子どもの囲碁教室に向かつて、2人で歩く線路脇の小道。ある一部だけ、きれいな花がたくさん咲いているのではないか。周囲を見渡すと、その向かい側の家が、一軒玄関先にもきれいに花を植えている。きつとこの家の人が、線路脇に花を植えたのに違いない。子どもと一緒に花を愛で、「きつとこのおうちの人が植えてくれたのね」と、私は子どもの手を引き、その家に向かって小さく一礼した。

「きつと皆のためになるだろう」「きつと言ってくれる人がいるだろう。褒めてほしいからでも、認めてほしいからでもなく、花を植えたのだと思う。周囲を思い、相手を思い、まず自ら行動すること。そういう行為を、英語ではギビング(giving)＝与える行為、そんな人を与える人「ギバー(giver)」という。ギブとは、モノを与えるという意味ではない。相手を思いやり、まず自分から相手のため、周囲のために行動を起こすこと。見返りを望まず、周囲に貢献する志。認めてもらわなくても、たとえ相手に気づかれなくても、行動を起こすこと。優しい言葉がけ、思いやり、職場での売上アップへの提案や率先した行動。それらは皆、ギビングな行為だ。

一般的には、「ギブ&テイク」という表現が聞かれる。「ギブ&テイク」は、辞書では公平と書いてあるが、よく考えてみればこのフレーズを使うのは、「この前の貸しを返してほしい」と相手から何かを引き出す時。見返りを求めず、ギブし続ける自分であるべしという志から、私は「ギブ&テイク」という言葉を辞書から捨て、「ギブ&ギブン」という表現を使うことにした。わざわざテイクしにいかなくても、自分がギビングでいつづければ、周囲が見ていていつか周囲から与えられる「ギブン」。良いと思ったことをする。仕事でも、生活でも自分の全力を尽くす。必ずしも、その時にいい反応が返ってくるとは限らない。ギブンされるまでに時間がかかるかもしれない。それでもテイクせず、ギバーでいつづける。道端に花を植えた人の心に触れ、ギバーでいつづける大切さを再確認した。